



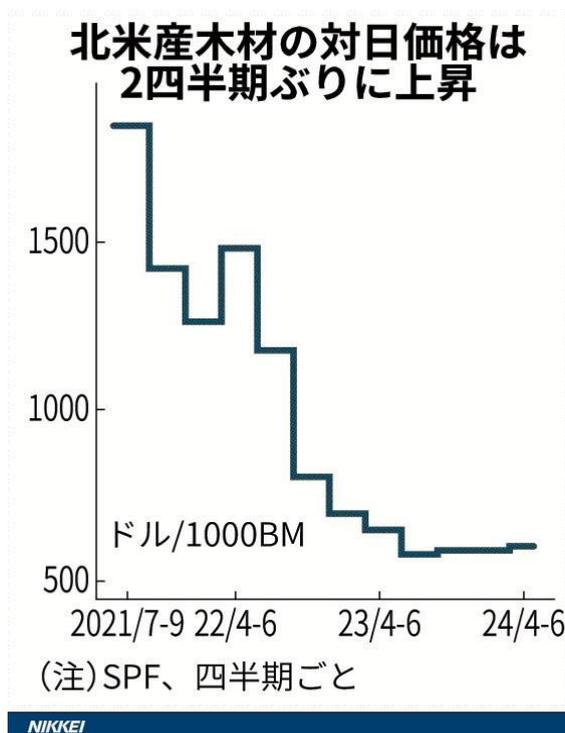
北米産木材、対日2%高 4~6月

ツーバイフォー（2×4）住宅の壁などに使う北米産木材の4~6月期の対日価格が1~3月期に比べ2%高に決まった。上昇は2四半期ぶり。カナダの山火事の余波で供給量の減少が続く中、現地企業からコスト転嫁の値上げ圧力が強まった。日本にとっては木造住宅の需要が振るわない状況で住宅価格の押し上げ材料となれば、需要回復が遅れる恐れがある。

ツーバイフォー住宅の壁などに使うカナダ産SPF（トウヒ・マツ・モミ類）は、売り手であるカナダの製材会社と買い手の日本の商社などが四半期ごとに価格交渉する。4~6月期の日本向け規格（Jグレード）価格は1千ボードメジャー（BM=2.36立方メートル）あたり595~605ドル（海上運賃込み）前後と1~3月期に比べ10ドル（2%）高い。値上がりは2023年10~12月期以来だ。

カナダでは23年、異常気象をうけ西部のブリティッシュコロンビア州などで広大な森林が焼けた。火事は収束したが、「伐採できるエリアが限定され、良材の確保が難しくなっている」（現地サプライヤー）。製材量が限られる中、製材会社はカナダ経済のインフレで増えた人件費や運送費、電気代などのコストを木材価格に転嫁する動きを強めた。

紅海航路の混乱も影響している。イエメンの親イラン武装組織フーシによる商船への攻撃が活発になり、欧州産木材をアジアに運ぶコンテナ船の多くが紅海経由を避け、喜望峰経由のルートに変えた。欧州産木材は航海日数が延び運賃が上乗せされたことで価格が上昇。日本側の需要の一部が北米材にシフトし、北米のサプライヤーにとって対日交渉が有利になった。





7～9月期もカナダ側のサプライヤーは値上げを求めてくる見込みだ。カナダ国内では集合住宅の建設が増えており、木材の荷動きは堅調という。夏の暑さが厳しくなれば山火事発生リスクもあり、不足感が強まる可能性もある。

カナダ産木材の主な輸出先である米国がカナダ産木材に対する不当廉売（アンチダンピング）関税率を引き上げる見通しも浮上している。商社の担当者は「米国向けの価格の引き上げと同時に、日本向けの対日価格も上げる公算が大きい」とみる。

米業界紙のランダム・レングスによると、主流のツーバイフォー製材品「No.2&ベター」が3月下旬に1千BMあたり463ドル。前年同期の同360ドルに比べて3割高い。

日本では住宅に使う木材の需要は冷え込んでいる。国土交通省がまとめた1月の木造住宅の新設着工戸数は前年同月を2.3%下回った。22年4月以降マイナスが続く。新型コロナウイルス下の在宅勤務の増加を背景に一時盛り上がった住宅需要が落ち着いてから、浮揚のきっかけをつかめていない。

木材価格の上昇は住宅の販売価格の押し上げ材料となる。鉄鋼などの建設資材が上昇するなかでも、木材価格は21年ごろの世界的な木材高騰局面が落ち着いて以降は下落傾向だった。しかし、住宅建築が鈍いなかでここにきて下げ止まりから再び上昇基調になれば、住宅需要の低迷が続く要因になる可能性がある。今後の市場環境によっては、体力が弱い中小住宅メーカーが集約されるとの見方もある。



休みは増えた、日当は… 建設現場延びる工期

札幌市にある屯田南小学校。3月中旬にトイレを和式から洋式に変え、入学予定の新1年生を迎えるはずだった。しかし、工事は一向に始まらない。施工企業が決まらなかったためだ。

札幌市で入札に誰も参加しない「不調」に終わる公共工事が相次いでいる。2023年は建築部発注分だけで約50件と前年の5倍以上になった。同小の工事もその一つだ。

4月から適用される時間外労働の上限規制を前に、建設現場では週休2日の導入が急ピッチで広がる。これまでは週休1日が一般的だった。

休みが増えると、工期は延びる。建設会社が年間で受注できる工事件数は減る。札幌市建築部で機械設備課長を務める宮崎照朗は「『不調』が減ることはないだろう」と頭を抱える。

ゼネコン大手、大成建設が参加する東京都北区の配水池工事。作業所長の後藤修二はタブレットを片手に、掘削した土砂の量を常にチェックする。

作業のもたつきをなくし、残業時間を少しでも減らすのが狙いだ。「口頭でやりとりしていた時よりも、（土を運ぶ）ダンプトラックを効率よく配車できるようになった」（後藤）

もっとも時間外労働を減らすには、こうした取り組みだけでは限界がある。休みは増やさなければならない。大成建設社長の相川善郎は「キャパシティー（受注余力）の縮小を踏まえて受注活動をしている」と話す。

働き手もとまどう。工事現場は日当で働く人も多い。単独で現場を渡り歩く「一人親方」として働く都内の30代女性は、「週休2日になると月に10万円収入が減る」と打ち明ける。

宮崎市にある中小建設会社、金本組の金本純一社長は、収入減を嫌がる一人親方のつなぎ留めに悩む。「日当を増やせばいいが、簡単ではない」

工期の長期化を嫌がる発注主の要望と、週休2日を両立するには作業員や機材を増やすしかない。結果、採算は悪化する。

人材サービスのヒューマンリソシア（東京・新宿）の試算では30年に建設関連の職人は17万人不足する。必要な人員の半分に相当する。賃金が上がらなければ、なり手は出てこない。

日本の建設会社は工期に間に合わせることを何よりも優先してきた。人手が足りなければ、それも難しくなる。芝浦工業大教授の蟹沢宏剛は「マンションの入居が遅れるといった影響が顕在化するのはいずれからか」と指摘する。



新規ストレートアスファルト 取引価格			単位：円/トン
地域	時期	取引価格帯	相場動向
東日本	3月下旬	93,500-98,500	やや強
西日本	3月下旬	93,500-98,500	やや強

※東日本は、北海道、東北、関東甲信。西日本は、中部、北陸、関西、中国、四国、九州、沖縄。

3月下旬のストアスの相場は強含んだ。契約者向けの販売を含む4月の合材工場届け価格は、東日本、西日本ともにトンあたり93,500～98,500円と2月下旬比で4,500円上昇した。埼玉県東部の合材工場向けに90,000円台後半、千葉県千葉市と兵庫県神戸市の工場向けにはいずれも90,000円台前半から半ばの水準で成約が具現。ENEOSの4月の卸販売価格が3月比で2,000円高となったことに加え、ローリー運賃を含む経費の増加を受け、ストアス販売会社の多くが売値を引き上げている。

ストアス販売会社の多くは2月以降、「2024年問題」を契機としたローリー運賃の上昇に加え、基地経費の増加を受け、4月から2,000～4,000円強の販売価格の引き上げを契約各社へ要請中。3月下旬までに、ストアスの供給拠点から離れた場所にある合材工場向けを中心に、複数の値上げ交渉が妥結している。ストアス販売会社は「値上げ交渉の多くは4～6月期の精算を実施する7月上旬まで長期化しそうだが、大都市圏以外の地域では、値上げの受け入れが進み始めている」としている。

3月下旬の改質アスファルトⅡ型(以下、Ⅱ型)の4月の合材工場届け価格の中心は104,000～109,000円と2月下旬から3,500円高。ストアスとの格差はⅡ型の10,500円高。改質アスファルト製造企業による値上げの動きが弱く、相場の上げ幅は限られた。改質Ⅱ型は、2022年7月に10,000円近くに達する大幅な値上げが実施されており、Ⅱ型の製造企業は、この4月からの大幅な値上げには積極的でないようだ。



ストレートアスファルト 需給動向		
地域	時期	動向
東日本	3月下旬	やや緩い
西日本	3月下旬	やや緩い

※東日本は、北海道、東北、関東甲信。西日本は、中部、北陸、関西、中国、四国、九州、沖縄。

3月下旬のストアスの需給は、東日本、西日本ともにやや緩い。製油所および油槽所出しのストアスの供給が総じて十分な半面、官公庁による舗装工事向けの需要が伸びを欠いている。年度末を迎えたこの時期になっても、ストアスの需要が増加に転じる様子は見られない。

北海道、中部、関西や九州など多くの地域でストアスの需要が低迷している。北陸でも石川県と新潟県で能登半島地震の緊急復旧工事向けの需要が増勢ではあるが、ストアスの需要量自体は限られている。唯一、東北および東京都を含む首都圏の一部で幹線道路、都市ガスや水道工事向けのストアスの需要が堅調な程度となっている。ストアス販売会社は「地方自治体の多くはすでに、今年度の道路舗装工事向けの予算を使い切っていると見られ、官公庁が実施するいわゆる『平場』の需要は、低迷したまま今年度を終えそうだ」伝えている。

一方でストアスの供給は十分な様子。ENEOSの根岸製油所(日量15万3,000バレル)の出荷が通常化するとともに、コスモ石油および昭和石油の四日市製油所における生産は、いずれも高い水準にとどまっている。昭和瀝青工業、伊藤忠エネクス、三菱商事などが操業する油槽所の在庫も高い水準に達しているもようだ。ENEOSが4月の卸販売価格を引き上げたことから、3月末にかけて4月の引き取り分を前倒しで手当てする仮需が増えると思われるものの、それでも供給余剰感は解消されないとの見方が強まっている。



週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート (▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	2/13～2/19	82.68	2.51	151.17	1.61	78.61	3.20
	2/20～2/26	82.98	0.30	151.36	0.19	78.99	0.38
	2/27～3/4	83.25	0.27	151.44	0.08	79.29	0.30
	3/5～3/11	83.34	0.09	149.83	▲1.61	78.53	▲0.76
	3/12～3/18	84.76	1.42	148.99	▲0.84	79.42	0.89
	3/19～3/25	87.00	2.24	151.77	2.78	83.04	3.62
水曜日～ 火曜日	2/14～2/20	82.84	2.07	151.37	1.63	78.86	2.79
	2/21～2/27	82.79	▲0.05	151.43	0.06	78.85	▲0.01
	2/28～3/5	83.33	0.54	151.40	▲0.03	79.35	0.50
	3/6～3/12	83.36	0.03	149.12	▲2.28	78.18	▲1.17
	3/13～3/19	85.36	2.00	149.48	0.36	80.25	2.07
	3/20～3/26	86.90	1.54	152.29	2.81	83.23	2.98

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSLレート